



文芸作家^{から}、
脚本家、作詞家^{まで}、
さまざまな「名文」の

「なぜ文章は
つい先を読んで
しまうのか」

「どうすれば
こんな文章が
書けるのか」

を解説!

文体のひみつ

なぜあの人の文章は
つい読んでしまうのか?

文芸評論家
三宅香帆

そんな
「仕掛け」
があったとは!

超一流の
作家、ライター、
インフルエンサー
だけが知っている
心をつかむ文章の技



お盆休みに広島県の福山の神石高原（じんせきこうげん）ホテルというところで名越康文先生の合宿に参加してきました。

すごく実り大きな2泊3日になって、改めて、なんで「合宿」というものに参加しようと思ったかと言うと、合宿ってポロリが多いんですよ。

ポロリとは何かについて説明したいんですけど、合宿を主催した名越先生って著名人だし、そういう著名人とか教壇の前に立つ方って、想像以上に自分の言動に気を付けているのです。

具体的「ポロリ」の説明!

でも、合宿中とかって「これは教科書とかには載せられないし、大きな声で話したら誤解をされるかも知れないから言えないけど」という、ポロリが多い。僕は勝手に、その「ポロリ」がその人の本筋に根差した、知恵の結晶だと想っているのです。

まとめ わかりやすいし、
ついていきやすい。すごい

↓ しいたけ「しいたけのブログ」より

この文章の最大のポイントはどこでしょう。つい目を奪われる箇所はどこかということ。そうです、「ポロリ」です。しいたけ、さんは、とある先生の合宿に参加してきました、と切り出し、そのまま合宿における出来事を話すのかと思いきや、突然登場させる言葉が「ポロリ」。(え、なんのこと!?)と読者はドキッとします。だって「合宿でのポロリ」って……なんかこう、妙に生々しい感じがしません!? 気になる。

そこでもしいたけ、さんは、きちんと「ポロリとはなにかについて説明したいんですけど、」「……聞こえますか……今、ポロリという言葉が気になったそのあなた、安心して下さい。ちゃんと今から説明しますから」というふうに、まるで読み手の心を見透かしたように、すぐさまフォローしてくれれます。(なんのこと!?)と最初に戸惑わせておいて、「ちゃんと説明しますね」ってにこっと笑いかけます。読者が「ポロリ」でひっかかることをきちんと予測しているわけです。「読み手がひっかかる」↓「書き手がそのひっかかりを取る」このくり返しこそが、占いという、相手が特定できないようなメッセージを、読み手全員に「私に向かって語りかけてくれる……?」と思わせる文章に仕立て上げるのでしょう。

こんなふうに、先にあえて「刺激的かつ意味不明な言葉」を放り込み、後から「実はこういうこと」とやさしく説明していく。この流れこそ読み手をするつと巻き込むお手本のような文体です。